

滝沢市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>1 国県道の整備について(1)</p> <p>滝沢市においては、国道4号、国道46号、国道282号の国道3路線と主要地方道盛岡環状線、一般県道盛岡滝沢線など県道6路線が走っており、これらの国県道が市内道路網の骨格を形成しております。また、市内には東北縦貫自動車道滝沢インターチェンジや滝沢分レ交差点など広域道路網における交通の要所が存在しています。</p> <p>この中であって主要地方道盛岡環状線は、滝沢市内を南北に縦断し、国道4号及び国道282号と国道46号とを連結し、県北地域や青森・鹿角方面と国道46号を經由して秋田方面とを結ぶ物流等の主要幹線道路となっております。また、沿道には住宅団地、小・中学校、市役所等が位置し、多くの市民が通勤・通学等で利用するなど、市民の生活道路としても重要な路線となっております。しかしながら、現在、日交通量2万台近くの車両が行き交い、更には大型車の混入率が20%を超え、県内における大型車混入率が最も高い区間の一つになっています。</p> <p>このような状況にあって、危険箇所の拡幅改良や渋滞対策等の事業を継続的に進めていただいているところですが、市内には旧規格の狭い道路幅員の区間や両側に歩道が整備されていない区間も多く残っており、交通混雑の緩和はもとより道路利用者、特に通学児童生徒や高齢者の交通安全の確保が喫緊の課題となっております。</p> <p>このことから、引き続き道路の現状把握に努め、拡幅改良等の事業促進を図るとともに、通過交通量の削減や大型車混入率の低減等、抜本的な課題解決に向けた具体的な方策について、早急に検討する必要があります。</p> <p>また、盛岡西廻り北バイパスは、平成26年度に策定した「盛岡広域都市圏道路網基本計画」において、2環状6放射の圏域骨格道路の重要な幹線道路として位置づけられており、主要地方道盛岡環状線や国道4号盛岡バイパスの渋滞緩和に繋がることから、盛岡西廻り北バイパスの早期整備に向け、国、県及び関係市町一体となり、具体的な取組を進める必要があると考えております。</p> <p>以上のことを踏まえ、次のとおり要望いたします。</p> <p>[要望事項]</p> <p>1 主要地方道盛岡環状線は、地域住民にとって日常生活に欠かせない重要な生活道路であり、また、災害時の緊急避難路としても重要な役割を担っていることから、盛岡市境の岩姫橋からから国道46号に至る区間について、それぞれの区間の実情にあった渋滞対策や安全対策を講じるとともに、抜本的な課題解決に向けた具体的な方策を検討されたい。</p> <p>また、現在事業中の一般県道盛岡滝沢線(下鵜飼地区)と連続した路線である都市計画道路下鵜飼御庭田線(八人打地区)について、通学路の安全確保のため早期に事業化されたい。</p>	<p>< 要望事項 1 ></p> <p>(1) 主要地方道盛岡環状線木賊川交差点からふるさと交流館までのさらなる拡幅改良及び滝沢ふるさと交流館東側の歩道整備については、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討していきますが、早期の整備は難しい状況です。(C)</p> <p>(2) 主要地方道盛岡環状線鵜飼～大沢～篠木地区(滝沢市商工会館交差点から篠木小入口交差点間)については、篠木小入口交差点において、平成25年度に事業着手し、昨年度完成供用しました。(A)</p> <p>その他の区間については、事業中の箇所の進捗や公共事業予算の動向等を見極めながら検討していきますが、早期の整備は難しい状況です。(C)</p> <p>(3) 岩姫橋については、平成28年度から補修工事を実施しますが、建設後50年経過した老朽橋で、幅員も狭く橋梁前後の区間においても曲線区間が連続することから、整備の必要な区間として認識しています。岩姫橋の架替を含む改良整備については、早期の事業化は難しい状況ですが、今後は交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討していきます。(C)</p> <p>(4) 都) 下鵜飼御庭田線・都) 上堂鵜飼線八人打地区(滝沢市商工会館前交差点から東側の未整備区間)の整備については、隣接する下鵜飼交差点付近において、平成25年度から道路改良事業に着手したところであり、今後、要望区間の整備についても、交通量や沿道環境を考慮しながら、県全体の道路整備計画の中で検討していきます。(C)</p>	盛岡広域振興局	土木部	A・C

滝沢市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p><要望箇所></p> <p>(1) 主要地方道盛岡環状線滝沢ふるさと交流館から木賊川交差点までの未整備区間の拡幅改良及び滝沢ふるさと交流館東側の歩道整備</p> <p>(2) 主要地方道盛岡環状線鶴飼～大沢～篠木地区（滝沢市商工会館交差点から篠木地区交差点間）の未整備区間の拡幅改良及び滝沢南中学校入口前後の線形改良</p> <p>(3) 主要地方道盛岡環状線岩姫橋の架け替え及び岩姫橋～野沢地区の歩道設置</p> <p>(4) 都市計画道路下鶴飼御庭田線（八人打地区）の早期事業化</p>				

滝沢市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>2 国県道の整備について(2)</p> <p>滝沢市においては、国道4号、国道46号、国道282号の国道3路線と主要地方道盛岡環状線、一般県道盛岡滝沢線など県道6路線が走っており、これらの国県道が市内道路網の骨格を形成しております。また、市内には東北縦貫自動車道滝沢インターチェンジや滝沢分レ交差点など広域道路網における交通の要所が存在しています。</p> <p>この中であって主要地方道盛岡環状線は、滝沢市内を南北に縦断し、国道4号及び国道282号と国道46号とを連結し、県北地域や青森・鹿角方面と国道46号を經由して秋田方面とを結ぶ物流等の主要幹線道路となっております。また、沿道には住宅団地、小・中学校、市役所等が位置し、多くの市民が通勤・通学等で利用するなど、市民の生活道路としても重要な路線となっております。しかしながら、現在、日交通量2万台近くの車両が行き交い、更には大型車の混入率が20%を超え、県内における大型車混入率が最も高い区間の一つになっています。このような状況にあって、危険箇所の拡幅改良や渋滞対策等の事業を継続的に進めていただいているところですが、市内には旧規格の狭い道路幅員の区間や両側に歩道が整備されていない区間も多く残っており、交通混雑の緩和はもとより道路利用者、特に通学児童生徒や高齢者の交通安全の確保が喫緊の課題となっております。</p> <p>このことから、引き続き道路の現状把握に努め、拡幅改良等の事業促進を図るとともに、通過交通量の削減や大型車混入率の低減等、抜本的な課題解決に向けた具体的な方策について、早急に検討する必要があります。</p> <p>また、盛岡西廻り北バイパスは、平成26年度に策定した「盛岡広域都市圏道路網基本計画」において、2環状6放射の圏域骨格道路の重要な幹線道路として位置づけられており、主要地方道盛岡環状線や国道4号盛岡バイパスの渋滞緩和に繋がることから、盛岡西廻り北バイパスの早期整備に向け、国、県及び関係市町一体となり、具体的な取組を進める必要があると考えております。</p> <p>以上のことを踏まえ、次のとおり要望いたします。</p> <p>[要望事項]</p> <p>2 国道282号一本木バイパス、主要地方道盛岡環状線、一般県道盛岡滝沢線等、現在事業化されている箇所について事業を促進されたい。</p> <p><要望箇所></p> <p>(1) 国道282号一本木バイパスの早期完成</p> <p>(2) 主要地方道盛岡環状線(中鵜飼地区)の早期完成</p> <p>(3) 一般県道盛岡滝沢線(下鵜飼地区)の早期完成</p> <p>(4) 都市計画道路上堂鵜飼線(諸葛地区)の早期完成</p>	<p><要望事項2></p> <p>(1) 国道282号一本木バイパスについては、平成22年11月11日に一本木地区の人家連担部を迂回する北側約2.8kmの区間について供用開始を行ったところです。残りの区間については一部用地協力が得られていないことから、供用にはなお時間を要する見込みですが、引き続き地権者のご理解が得られるよう努めていきます。(B)</p> <p>(2) 主要地方道盛岡環状線中鵜飼地区の道路改良については、平成25年度に事業着手し、今年度は残り1件の用地補償手続きを進め、契約完了となりました。平成29年度は引き続き改良工事を進める予定であり、今後とも貴市と連携を図りながら早期完成を目指し、整備推進に努めていきます。(B)</p> <p>(3) 一般県道盛岡滝沢線下鵜飼地区の道路改良については、平成25年度に事業着手し、平成29年度は引き続き用地補償、改良工事を実施する予定です。今後とも貴市と連携を図りながら整備推進に努めていきます。(B)</p> <p>(4) 都) 上堂鵜飼線(諸葛地区)の早期完成</p> <p>盛岡滝沢線(都市計画道路上堂鵜飼線)の諸葛橋から一本柳交差点までの区間については、平成21年度完成供用したところであり、残りの一本柳交差点から東北自動車道東側までの区間についても引き続き事業を進め、平成28年内に完成したところです。(A)</p>	盛岡広域振興局	土木部	A・B

滝沢市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 国県道等の整備について(3)</p> <p>滝沢市においては、国道4号、国道46号、国道282号の国道3路線と主要地方道盛岡環状線、一般県道盛岡滝沢線など県道6路線が走っており、これらの国県道が市内道路網の骨格を形成しております。また、市内には東北縦貫自動車道滝沢インターチェンジや滝沢分レ交差点など広域道路網における交通の要所が存在しています。</p> <p>この中であって主要地方道盛岡環状線は、滝沢市内を南北に縦断し、国道4号及び国道282号と国道46号とを連結し、県北地域や青森・鹿角方面と国道46号を經由して秋田方面とを結ぶ物流等の主要幹線道路となっております。また、沿道には住宅団地、小・中学校、市役所等が位置し、多くの市民が通勤・通学等で利用するなど、市民の生活道路としても重要な路線となっております。しかしながら、現在、日交通量2万台近くの車両が行き交い、更には大型車の混入率が20%を超え、県内における大型車混入率が最も高い区間の一つになっています。このような状況にあって、危険箇所の拡幅改良や渋滞対策等の事業を継続的に進めていただいているところですが、市内には旧規格の狭い道路幅員の区間や両側に歩道が整備されていない区間も多く残っており、交通混雑の緩和はもとより道路利用者、特に通学児童生徒や高齢者の交通安全の確保が喫緊の課題となっております。</p> <p>このことから、引き続き道路の現状把握に努め、拡幅改良等の事業促進を図るとともに、通過交通量の削減や大型車混入率の低減等、抜本的な課題解決に向けた具体的な方策について、早急に検討する必要があります。</p> <p>また、盛岡西廻り北バイパスは、平成26年度に策定した「盛岡広域都市圏道路網基本計画」において、2環状6放射の圏域骨格道路の重要な幹線道路として位置づけられており、主要地方道盛岡環状線や国道4号盛岡バイパスの渋滞緩和に繋がることから、盛岡西廻り北バイパスの早期整備に向け、国、県及び関係市町一体となり、具体的な取組を進める必要があると考えております。</p> <p>以上のことを踏まえ、次のとおり要望いたします。</p> <p>[要望事項]</p> <p>3 IGR菓子駅に接続する市道を県道に昇格されたい。</p> <p><要望箇所></p> <p>(1) 国道4号～IGR菓子駅間 約2,200m</p>	<p>県道昇格については、市町村間を結ぶ道路など道路法に規定する認定要件を具備する必要があるため、これらの要件を満たした路線について、地域の道路網における市町村道との機能分担や、整備・管理する必要性等を総合的に判断した上で行うこととしています。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C</p>

滝沢市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>4 国県道等の整備について(4)</p> <p>滝沢市においては、国道4号、国道46号、国道282号の国道3路線と主要地方道盛岡環状線、一般県道盛岡滝沢線など県道6路線が走っており、これらの国県道が市内道路網の骨格を形成しております。また、市内には東北縦貫自動車道滝沢インターチェンジや滝沢分レ交差点など広域道路網における交通の要所が存在しています。</p> <p>この中であって主要地方道盛岡環状線は、滝沢市内を南北に縦断し、国道4号及び国道282号と国道46号とを連結し、県北地域や青森・鹿角方面と国道46号を經由して秋田方面とを結ぶ物流等の主要幹線道路となっております。また、沿道には住宅団地、小・中学校、市役所等が位置し、多くの市民が通勤・通学等で利用するなど、市民の生活道路としても重要な路線となっております。しかしながら、現在、日交通量2万台近くの車両が行き交い、更には大型車の混入率が20%を超え、県内における大型車混入率が最も高い区間の一つになっています。このような状況にあって、危険箇所の拡幅改良や渋滞対策等の事業を継続的に進めていただいているところですが、市内には旧規格の狭い道路幅員の区間や両側に歩道が整備されていない区間も多く残っており、交通混雑の緩和はもとより道路利用者、特に通学児童生徒や高齢者の交通安全の確保が喫緊の課題となっております。</p> <p>このことから、引き続き道路の現状把握に努め、拡幅改良等の事業促進を図るとともに、通過交通量の削減や大型車混入率の低減等、抜本的な課題解決に向けた具体的な方策について、早急に検討する必要があります。</p> <p>また、盛岡西廻り北バイパスは、平成26年度に策定した「盛岡広域都市圏道路網基本計画」において、2環状6放射の圏域骨格道路の重要な幹線道路として位置づけられており、主要地方道盛岡環状線や国道4号盛岡バイパスの渋滞緩和に繋がることから、盛岡西廻り北バイパスの早期整備に向け、国、県及び関係市町一体となり、具体的な取組を進める必要があると考えております。</p> <p>以上のことを踏まえ、次のとおり要望いたします。</p> <p>[要望事項]</p> <p>4 盛岡西廻り北バイパスの早期整備に向けた具体的な取組について検討されたい。</p> <p><要望箇所></p> <p>(1) 国道46号～国道4号滝沢分レ南交差点間</p>	<p>県では、平成26年度に盛岡広域都市圏道路網基本計画を策定し、盛岡西廻りバイパスを含めた幹線道路ネットワークのあるべき姿を定めたところです。</p> <p>盛岡西廻り北バイパスの計画については、今後、整備に向けた具体的な取組について国及び関係市の協力を得ながら調整していきます。</p>	盛岡広域振興局	土木部	C

滝沢市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>5 岩手県立大学周辺の産業集積について</p> <p>岩手県立大学（以下「県立大学」という。）は、実学実践の教育が産業界に大きく評価され、大学との共同研究や学生との交流等を求める企業の声が県内のみならず、全国から聞こえてきています。</p> <p>県立大学立地の強みを産業振興に繋げるため、岩手県では、平成18年の『産業成長戦略』及び平成20年の『いわて希望創造プラン地域編』において、盛岡広域地域へのIT関連産業の集積を目指し、その重点として県立大学周辺への産業集積を掲げています。</p> <p>また、平成21年3月には、岩手県、県立大学及び滝沢市の3者による『滝沢市IPUイノベーションパーク整備計画』を策定しました。この計画では、岩手県の役割を、「産学連携の推進により県内IT産業等の振興に取り組む主体として、企業誘致、IT関連企業の技術者育成、技術高度化への支援、県内企業とのアライアンスを行うこと」としています。</p> <p>本市においても、県立大学周辺への産業集積を重点政策とし、その第一歩として、平成21年5月に滝沢市IPUイノベーションセンターを建設し、その後、県立大学地域連携棟東側の約3ヘクタールの土地を造成し、平成24年度から分譲しており、更に、平成26年度には、当時第1イノベーションセンターが満室となったことから、第2イノベーションセンターを整備しております。これにより、岩手県立大学との共同研究、地元企業や学生などを中心とした交流事業、滝沢市をフィールド活用した実証実験などの取組が活発になり、これらの活動に賛同した企業が、滝沢市IPUイノベーションセンターに集積し、現在22社の企業が入居しており、あと少しで満室となります。</p> <p>県立大学周辺エリアを県内最大規模のIT関連産業の集積地域・開発の拠点とするため、更なる企業誘致と現在立地している企業への開発等の支援の強化を図り、第2イノベーションセンターに続く施設及び開発環境の整備並びに人材育成が必要であり、岩手県の強いリーダーシップのもと、県立大学、滝沢市との連携による対応が必要不可欠と考えています。</p> <p>盛岡広域連携中枢都市圏構想では、圏域全体の経済成長や都市機能の集積・強化などが挙げられています。県立大学周辺エリアに岩手県を代表するICT技術に関する高度な産業拠点の整備を促し、県民所得の向上、雇用環境の創出、人口流出の歯止めという重点目標を達成するため、次のとおり要望します。</p>	<p>1 企業誘致については、企業立地促進法の基本計画で、「組込みソフトとIT・システム関連産業」を盛岡広域地域の集積業種として指定し、地域の強みを生かした産業集積に向けて取り組んでいるところです。</p> <p>企業立地促進奨励事業費補助金は、地域経済や雇用への効果等を勘案し、一定規模以上の投資を要件として設定しているところであり、立地企業に用地・構築物等を賃貸する企業も対象としているところです。</p> <p>IT関連産業については、今後一層の成長が見込まれる分野であることから、具体的な企業ニーズなどを把握しながら、効果的な支援策について検討していきます。</p> <p>2 開発機器等の環境整備については、いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター組込システム実習室のパソコンと周辺機器の更新のための予算措置を平成28年度に行ったところですが、引き続き、企業ニーズ等を基に、貴市や岩手県立大学等と連携し、開発等を含む企業活動を支援していきます。</p> <p>3 県では、首都圏を中心としたU・Iターンの促進のため、東京事務所にUターンセンターを設置し、専任の職員2名による就職の相談対応や首都圏大学等への訪問による県内就職の情報提供を行っているほか、岩手県U・Iターンシステムを通じて希望者に県内企業の求人情報などを配信しているところです。</p> <p>また、27年にはU・Iターンポータルサイトの開設により情報発信の強化をするとともに、いわてジョブカフェ内に「いわてU・Iターンサポートデスク」を設置するなど県内でのU・Iターン希望者の支援の充実を図っているところです。</p> <p>さらに、今年7月には、U・Iターン促進のための情報誌として岩手日報タブロイド版「イワテバコ」特別号を発行し、PR活動にも力を入れているほか、東京のふるさと回帰支援センター内の「いわて暮らしサポートセンター」に、新たに就職活動のサポートを行うキャリア・カウンセラーを配置し、移住・定住と就職の一元的な相談窓口として体制強化を行ったところであり、岩手県Uターンセンター等との連携のもと、首都圏を中心としたU・Iターンの促進を図っていくこととしています。</p>	盛岡広域振興局	経営企画部	B

滝沢市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>[要望事項]</p> <p>1 整備計画の主体として滝沢市IPUイノベーションパーク及びセンターへの企業誘致活動を率先して進めるとともに、IT関連企業の立地へのインセンティブとなる現行補助金の要件等を引き下げるなど優遇措置制度を構築されたい。また、民間主導による新たなイノベーションセンターの構築のため民間整備に対する優遇措置制度の構築をされたい。</p> <p>2 岩手県立大学のi-MOSは、企業の立地のインセンティブになるほか、岩手県内の研究開発及び人材育成の中心となっており、先進的な開発機器等の環境整備が継続的に必要になるものと考えていることから、県の予算を確保し、常に先進性が保たれるよう整備、更新をされたい。</p> <p>3 企業誘致の推進及び立地企業の更なる成長のためには、人材の確保及び育成が不可欠であり、教育機関との連携による新卒人材の地元定着はもとより、首都圏を中心としたUIターン人材の確保が重要となることから、岩手県へのUIターン希望者誰もが分かる窓口設置、PR活動、体制強化を実施されたい。</p> <p>4 イノベーションパーク構想の更なる推進体制の強化を図るためには、イノベーションパーク運営協議会の体制を強化し、関係機関が運営費を拠出し産学官連携、人材育成の活動を実施する必要があることから、県として予算を確保されたい。</p>	<p>また、盛岡広域振興局においても、岩手IT県人会の開催等、U・Iターンの促進によるIT産業人材の確保に取り組んでいるところです。</p> <p>4 イノベーションパーク構想の推進に当たっては、一層の利活用が図られ、更なる集積が促進されるよう、イノベーションパーク運営協議会において、新たな計画づくりを進めることとしており、この中で、今後の協議会の体制や必要な取組について検討していくこととします。</p>			

滝沢市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>6 (仮称)滝沢中央スマートインターチェンジの整備促進について 岩手県は、本州一面積の広い県であり、本市を始め、岩手県を縦断している東北縦貫自動車道は、岩手県の重要な大動脈として利用されており、東日本大震災による復旧、復興のための物流支援や人的移動においても極めて重要な役割を担っています。</p> <p>この高速道路を有効活用・機能強化することは、広い県土において、住民の生活対策等に直結するものであり、東北縦貫自動車道へのスマートインターチェンジの整備は、広域的にも地域住民の移動手段を確保し、利便性の向上や地域振興に大きく寄与するものです。</p> <p>以上のことを踏まえ、次のとおり要望します。</p> <p>〔要望事項〕 交通分散による渋滞緩和やI Cアクセス時間の改善による利便性の向上、産業支援・強化に向けた地域経済活動の基盤づくり、救急搬送時間の短縮による救急医療支援等の整備効果が期待される(仮称)滝沢南スマートインターチェンジについては、平成27年度末までに事業用地の取得がほぼ完了しております。</p> <p>つきましては、今年度から本線横断橋や接続道路などの本体工事が本格化することから、平成31年3月の供用開始に向けて円滑な事業推進が図られるよう、関係予算の確保について特段のご配慮とご支援をいただきたい。</p>	<p>滝沢中央スマートインターチェンジについては、既在の高速道路の利便性を高め、県民の安全で安心な暮らしを守り、活力ある地域社会の形成を図るために必要不可欠なものです。そのため、必要な予算を確保するよう国に要望しており、今後も貴町と連携を図りながら、平成29年度に拡充される補助事業により整備推進が図られるよう国に対し要望していきます。</p>	盛岡広域振興局	土木部	B

滝沢市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>7 交番・駐在所の新設・移設について 住民の安全安心を守る治安維持は住民の願いであるとともに、自治体の最も基本的な責務の一つであります。 盛岡西警察署の管轄区域内となっている滝沢市には、現在交番が2か所、駐在所が2か所それぞれ設置されています。 交番・駐在所の位置的変動が最後に行われた昭和60年の盛岡警察署滝沢駐在所（現盛岡西警察署滝沢交番）移転から既に31年が経過しており、その間、当時約3万2千人であった本市の人口は、現在5万5千人を超えています。 また、道路整備や団地開発等に伴い、従前と比べ情勢の変動が大きく、交番及び駐在所の配置箇所を現状に即した場所へ変更することが最重要課題の一つとなっていることから、特段のご配慮をいただきたく強く要望します。</p> <p>[要望事項]</p> <p>1 現在巣子地内に所在している盛岡西警察署滝沢交番のI G Rいわて銀河鉄道滝沢駅又は巣子駅周辺等交通の要所への移設。</p> <p>2 現在大規模開発が進行中であり、著しい人口増加が見込まれる牧野林地区又は現に人口が集中している土沢地区等への交番の新設。</p> <p>3 現在国道46号沿いに所在している大釜駐在所のJ R 田沢湖線大釜駅付近への移設。</p>	<p>要望事項1 交番・駐在所の新設や移設については、昼夜の人口、世帯数、面積、行政区画及び事件又は事故の発生の状況等の治安情勢を総合的に勘案しながら、全県的視点に立って検討を進めています。 今回の御要望の盛岡西警察署滝沢交番の移設については、駅設置や住宅地開発等の地域事情の変化を踏まえ、可能な限り早期の適地への移転に向けて、具体的に検討を進めていきます。(B)</p> <p>要望事項2・3 交番・駐在所の新設や移設については、昼夜の人口、世帯数、面積、行政区画及び事件又は事故の発生の状況等の治安情勢を総合的に勘案しながら、全県的視点に立って検討を進めています。 今回の御要望についても、このような視点に立ちながら、要望の趣旨を深く認識し、引き続き検討していきます。(C)</p>	盛岡広域振興局	経営企画部	B ・ C
<p>8 一級河川木賊川の河川整備の促進について 本市と盛岡市を流れる木賊川は、河川断面が狭小で部分的に天井川となっており、過去度々浸水被害を受け、平成14年7月の台風6号の豪雨では、越水により1,253世帯に避難勧告が発令され、床上及び床下浸水が115戸に及ぶなど甚大な被害がありました。 現在、県で取り組んでいる河川改修事業により、平成23年度には分水路の供用がなされたことにより、地域住民も実感できる防災対策が進捗しているものと心より感謝申し上げます。 地域住民は、一日でも早く、より安全で安心できる暮らしを望んでいることから、遊水地建設及び河川改修の一層の促進を要望します。</p>	<p>木賊川の河川改修については、「遊水地＋分水路＋河道改修」の手法を治水対策の基本として段階的な整備により事業を進めており、平成23年5月には分水路への通水を開始するなど治水安全度を高めたところです。 昨年度は、遊水地予定地の用地取得が完了し、遊水地の工事に着手しました。 平成28年度は、引き続き遊水地の工事を進めます。</p>	盛岡広域振興局	土木部	B

滝沢市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>9 松くい虫対策について 被害が急速に拡大している松くい虫被害は、平成25年6月に本市で初めて確認され、県当局の迅速な対応とご指導により処理を実施しています。 本市が有するアカマツ林は、958ヘクタールで、民有林全体の18%を占める貴重な森林資源となっています。また、古くから市内に存し、美しい景観を作り出すとともに、水源かん養・土砂流出防備・防風などの機能を持つ、後世に引き継いでいかなければならない貴重な財産です。 しかし、ここ数年の松くい虫被害の状況から鑑みると、本市においても被害拡大が懸念される状況です。本市といたしましては、岩手県の木「ナンブアカマツ」を保護するため、情報収集に力を入れ、被害木の早期発見に努め、被害域の拡大阻止に全力で取り組んでまいります。 県においても、引き続き、県予算の確保と被害木の早期発見にご尽力くださいますようお願いします。</p>	<p>県では、未被害地域への松くい虫被害の拡大を阻止するため、「松くい虫被害防除監視帯」を設置し、被害木の航空探査や松くい虫被害防除監視員等による巡視活動を通じ早期発見・早期駆除に努めています。 また、アカマツ林は、木材資源としてのみならず、林地保全・水源かん養・景観の面からも貴重な資源であることから、引き続き松くい虫被害対策に係る事業予算の確保に努力していきます。</p>	盛岡広域振興局	林務部	A